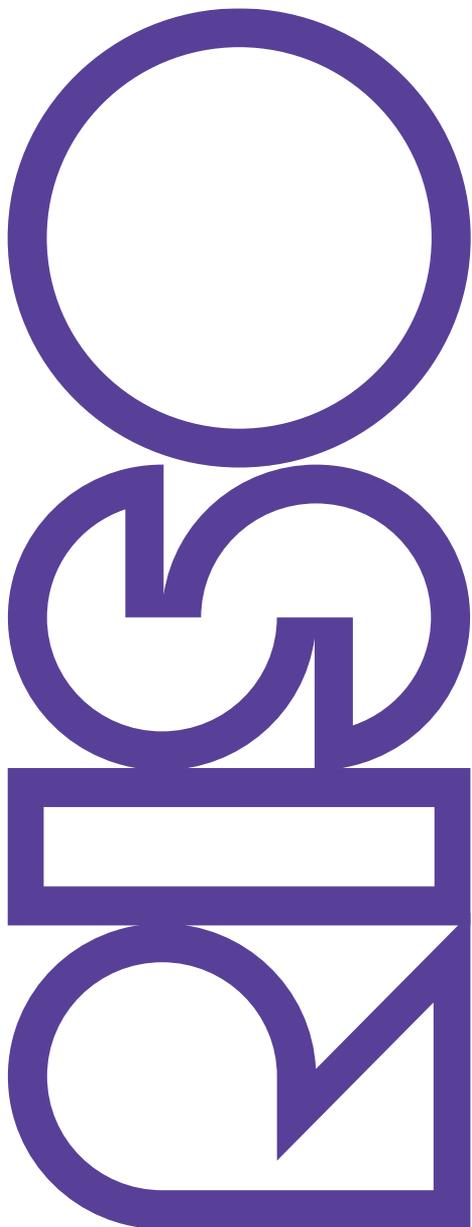


第 45 期事業報告書

平成10年4月1日～平成11年3月31日

 理想科学工業株式会社

RISO
REPORT
1999



株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃から格別のご支援ならびにご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに、第45期（平成10年4月1日から平成11年3月31日まで）の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

平成11年6月29日をもちまして、前代表取締役副社長 羽山 明が代表取締役社長に、前代表取締役社長 羽山 昇が代表取締役会長にそれぞれ就任いたしました。今後とも事業の発展に尽力する所存でございます。

当社は、創業以来53年の長きにわたり、「世界に類のないものを創る」をテーマとして独自の技術開発、市場開発を行ってまいりました。平成元年の株式店頭公開と時を同じくして、国内はもとより海外市場への進出、事業拡大に注力してまいりました。その結果、デジタル印刷機「リソグラフ」は世界中でご愛用いただけるまでに成長してまいりました。

今後は、世界中のお客様により良い製品と質の高いサービスをご提供するために、市場ニーズに対応した迅速な製品開発、販売網と生産体制の強化を進め、グローバルな視点で事業展開に邁進し、より強固な経営体質の構築をめざしていく所存です。

株主の皆様におかれましては、何とぞ一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



右：代表取締役会長 羽山 昇
左：代表取締役社長 羽山 明

平成11年6月29日

代表取締役会長 羽山 昇

代表取締役社長 羽山 明



代表取締役会長 羽山 昇

データからペーパーへ、 PCネットワーク時代の進展に リソグラフィの活躍の場が広がる。

理想科学工業は、世界で唯一の孔版印刷機器の専門メーカーとして、デジタル孔版印刷機「リソグラフィ」や、家庭用印刷機「プリントゴッコ」をメインビジネスに、グローバル企業への歩みを着実に続けています。そこで、羽山会長に同社の事業展開や市場動向、ならびに今後の方向性についてお話を伺いました。



理想科学は、孔版印刷機器のリーディングカンパニーとして事業を展開していますが、その軌跡や経営戦略などについてお聞かせください。



当社は創業以来一貫して、孔版印刷の分野で技術開発を積み重ねてまいりました。デジタル印刷機リソグラフィや家庭用印刷機プリントゴッコは、理想科学が独自に開発し育ててきた「新孔版」技術によって生み出された製品です。ほとんどのメーカーが孔版印刷の分野から撤退した後、当社だけがこの技術の可能性を信じ、技術開発を続けてきました。

主力製品のリソグラフィは、操作が簡単で、毎分最高130枚の高速印刷、ランニングコストは格段に安い。しかも、画像は全てデジタル処理ですからコンピュータとの接続性が非常に優

れています。

リソグラフィは、現在150カ国以上の国々で幅広くご利用いただいております。「多枚数の印刷を手早く、低コストで行いたい」というニーズは世界中にあり、リソグラフィがそのニーズに応えてきた結果であると思います。言い換えればリソグラフィは、必需性を持った製品であるということです。

「世界に類のないものを創る」という開発ポリシーのもと、理想科学はこれからも開発型企業としての歩みを進めてまいります。



開発ポリシーについて具体的にお話してください。あわせて、事業の特徴についてもお聞かせください。



「世界に類のないものを創る」とともに「必ず消耗品のつくものを創る」、「大手が手がけない

会長インタビュー

ものを創る」の3つを商品開発の基本ポリシーに掲げています。独創的で価値ある製品は、それ自体がマーケットを創造する力を持っています。そして独創的であるということは、その分野に関しては世界のどの企業にも負けない技術や製品を持っているということです。リソグラフやプリントゴッコはその好例です。

当社の草創は謄写印刷店でしたが、昭和29年に国産初のエマルジョンインク「RISOインク」を自社開発し、メーカーとして地位を確立しました。その後プリントゴッコやリソグラフを開発、常に技術の高度化を図ってきました。理想科学は孔版印刷機器の専門メーカーとして、ハードウェアからサプライ製品までを一貫して開発・生産・販売する唯一のメーカーです。

そして、独創的な技術から生み出されるハードウェアとサプライ製品の両輪が、当社の長期的な安定収益を確保する基盤となっています。



リソグラフマーケットの今後の動向と
理想科学の事業展開について
お聞かせください。



近年の急激なパソコンの普及や通信ネットワークなどのインフラ整備の進展は、ビジネス社会におけるコミュニケーションの様相を一変させるほど大きな流れとなっています。こうした状況の中で、多様化するオフィスの印刷ニーズに対応するリソグラフの重要性はまず



独創的な製品を開発

まず高まっていくと考えています。

孔版印刷はデジタル技術と相性がいいという特徴をもっています。孔版は版となる原紙に、孔を開けるか否かで画像を形成していくので、極めてデジタル的な原理を持つ印刷方式なのです。

当社は、リソグラフのデジタル化を早期に行い、平成2年からパソコンやワープロとのインターフェイス製品を市場に投入してきました。そして平成11年1月、ネットワーク対応の「リソグラフFRシリーズ」を発売しました。これは、企業内LANなどのネットワーク接続により、手元のパソコンからリソグラフに印刷指示をするだけで必要部数の印刷を即時に仕上げることのできる最新鋭のリソグラフです。

従来は、単にペーパーベースの原稿を複製するのが主流でした。これからは、パソコンなどで作成したデジタル原稿データが通信ネットワークにより、必要な場所で必要な枚数だけリソグラフで印刷されて人々に配られるという時代になるでしょう。

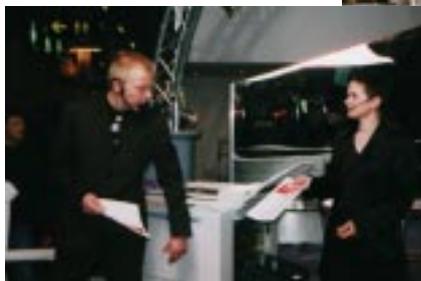


海外販売網の強化を
重要な経営課題に位置づけていますが、
その具体的展開についてお話しください。



当社の海外展開は昭和61年の米国での販売
子会社設立にはじまります。その後、世界各地
の主要国に現地法人を設立、販売体制を構築し
てきました。

リソグラフは、コストパフォーマンスに優れ
ています。その観点から発売時点より、「海外市
場で必ず受け入れられる」と確信していまし
た。販売戦略においては、RISOブランドを重視
して独自の販売チャネル・技術サポート体制の
構築を進め、現在では世界150カ国以上に輸出
しています。



ドイツ・ハノーバー国際見本市会場で行われた セビット'99

当社は、「現地法人の経営は、市場を熟知し
ている現地の人に任せる」という現地主義を
ポリシーに世界中の学校、政府機関、民間企業
などに一台一台丁寧に販売していきたいと考
えています。

今後もさらなる販売網の拡充を図り、積極的
に市場拡大を進めていきます。



最後に、株主の皆様
にメッセージをお願いします。



当社は、企業体質の強化と積極的な事業展
開に必要な内部留保、株主の皆様への将来に
わたる安定配当の維持等に充分配慮しながら、
業績に基づいた配当政策を実施していくこと
を基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり50
円とさせていただきます。配当性向は16.5%、
株主資本配当率は1.3%となります。

また、当期の内部留保資金につきましては、
研究開発、設備投資等の資金需要に備えると
ともに今後の事業拡大に活用していきます。

今後理想科学では、お客様のニーズに応え
た新製品の投入や、世界的な販売網の構築に
注力し、グローバルな視野で柔軟な事業展開
を進めていきたいと考えています。

国内外のフェアで、 リソグラフの印刷力をアピール

理想科学は、製品PRの場として国内外のさまざまなフェアへの出展や展示会の開催を行っています。来場される皆様に、製品の展示や実演を通じて、リソグラフの印刷スピードや低ランニングコスト、画質の鮮明さなどを積極的にアピールしています。



東京ビッグサイトで行われたビジネスシヨウ'99 TOKYO(平成11年5月)

リソグラフは、国内最大の総合OA展であるビジネスシヨウ'98 TOKYO(平成10年5月、東京)をはじめ、東京グラフィックスフェア(同7月、東京)やドイツ・ハノーバー国際見本市会場で毎年開催されるOA・情報通信イベント、セビット'99(平成11年3月)ほか各種のフェアに出展。リソグラフのメリットや先進の機能を体験できる当社ブースでの実演は、来場者の大きな注目を集めました。

また、平成10年10月から翌2月にかけて全国各地で開催された「リソグラフ・フルラインアップフェア」では、新製品リソグラフFRシリーズをはじめ、リソグラフ全ラインアップを一室に展示。特に、業界初のネットワーク環境

に対応したリソグラフFR295Nや、リソグラフとパソコンをインターフェイスしたオンデマンド印刷システムが大きな関心呼び、連日、導入相談や具体的な商談が活発に展開されました。

資源の有効活用と環境との共生を推進

理想科学は、平成2年からリソグラフ用の印刷用紙に再生紙を加えてきました。平成10年3月、古紙配合率100%の「理想環境用紙CP-100」と同70%の「理想環境用紙CP-70」を新発売。どちらも白色度は70%に抑えた中性紙です。

また資源の有効活用として、リソグラフの使用済みインクボトルのリサイクルを進めています。回収したインクボトルはリペレット(小さな樹脂の粒)にし、加工することで、ハンガーや小物入れなど生活に役立つ品物に生まれ変わっています。

当社宇部工場(山口県宇部市)は、平成10年10月、財団法人日本緑化センターから「平成10年度緑化優良工場」として表彰されました。これは「工場緑化の推進に努力し、周辺地域の生活環境向上に顕著な功績があった」として表彰を受けたものです。



リサイクル成形品の一例

ネットワーク対応のリソグラフFR295N、コンパクトタイプのリソグラフCR163を発売

企業内LANなどのネットワーク環境に対応し、多枚数印刷ワークを省力化する高速デジタルプリンタ「リソグラフFR295N」、コンパクトサイズの「リソグラフCR163」を新発売しました。

リソグラフFR295Nは、パソコンやプリントサーバー、モデムからデータをダイレクトに受け取って、デジタル原稿を高精細に高速・低コストで印刷できる最新鋭のリソグラフです。

手元のパソコンからリソグラフへの印刷指示が簡単にでき、一般文書や定型帳票、DM・チラシ類の販促ツールなど多枚数を必要とする印刷物が即時に仕上がります。また通信機能を搭載、通信回線で送られた原稿ファイルを受信し即時に印刷、受信側ではパソコンの接続は不要です。リソグラフFR295Nは、多様化するオ



リソグラフFR295N

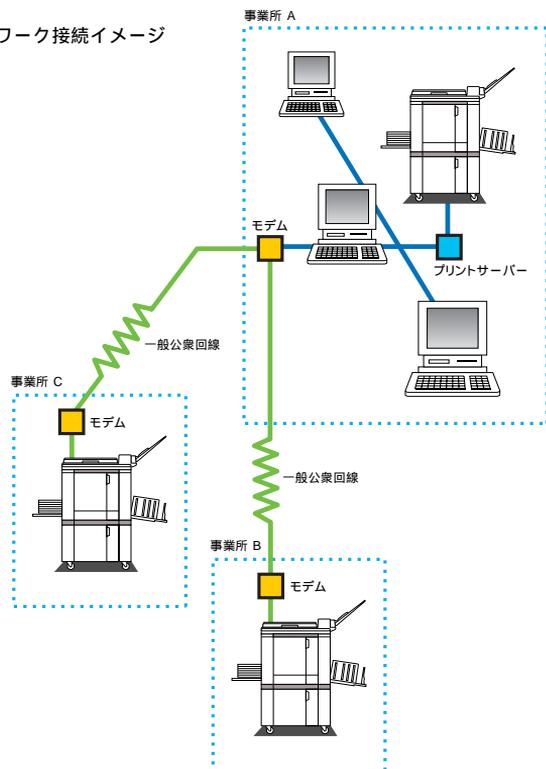
フィスの印刷ニーズにデジタルネットワーク印刷で応えます。

リソグラフCR163は、毎分130枚の高速印刷、パソコンとのインターフェイスなどリソグラフの基本性能を小型・軽量のボディに凝縮したベーシックモデルです。



リソグラフ CR163

ネットワーク接続イメージ



中国に現地法人を2社設立、 リソグラフの海外生産に向け始動

中国の金融・貿易センターを目指して整備が進む上海市浦東新区に、「理想(上海)国際貿易有限公司」を平成10年2月に設立、6月から営業を開始しました。同社は、アジア最大のマーケットである中国において、リソグラフのメンテナンスパーツのスピーディーな供給と技術スタッフの育成を通して顧客第一主義の環境づくりを進めています。

また平成11年5月には、中国航天機電グループの有力企業、天通計算機応用技術中心との合弁会社「珠海理想科学工業有限公司(広東省・珠海市)」を設立することで調印しました。同社はリソグラフの製造・販売を目的として平成11年7月より営業開始を予定しています。新会社の設立により、理想科学として初の海外生産拠点が発足します。



「珠海理想科学工業有限公司」調印式の様子

プリントショップ事業「プリントテクノ」が 本格始動へ

併設型プリントショップをコンセプトとする「プリントテクノ」の加盟店が400店舗を超え、本格始動に入りました。プリントテクノはリソグラフSR7400を利用して、小規模の投資で始められるプリントビジネスです。フランチャイズ方式をとらず、友の会による「ファミリーチェーン」であるという特徴を持ち、会員同士のノウハウの交流、地域密着のネットワークをテーマに展開。私たちの日々の暮らしの中から発生する、チラシ、名刺、各種の挨拶状、私用箋、自費出版といった身近な印刷ニーズにお応えしています。



「プリントテクノ」友の会の
キャラクター



リソグラフSR7400

プリントゴッコ3機種が シンプルなニューパッケージで新登場

家庭用印刷機「プリントゴッコ」は、平成10年9月で発売22年目を迎えました。累計販売台数も1,000万台を越え、多くのお客様にご愛用いただいています。「そろそろ次の1台を」



プリントゴッコ(PG-5, PG-11, PG-10)

「好きな色のインクを組み合わせると」というご要望にお応えして、プリントゴッコ3機種(PG-11, PG-10, PG-5)がインク、ランプ、マスターを別売としたパッケージで新登場。シンプルなセット内容でお求めやすくなりました。

「手づくりの絵はがき」コンクール 心の通うコミュニケーション社会づくりを

理想科学は、財団法人理想教育財団主催による「手づくりの絵はがき」コンクール(文部省・郵政省ほか後援)を協賛しています。今回で22回目を迎えたこのコンクールは、絵はがきの創作を通して子どもたちの創造性の開発、親子の対話の復活、友達の輪を広げるなど、心の通うコミュニケーション社会づくりを目的に毎年

実施されています。応募者の年齢層も幅広く、また国内のみならず、アメリカ、フランス、ドイツ、中国、オーストラリアなど海外からも多数の応募がありました。入賞作品展では、のびやかな感性の作品や親子の合作、手づくりの温かさに満ちた作品が来場者の目を楽しませました。



4月11日、逓信総合博物館(ていばーく)で行われた表彰式の様子



『文部大臣奨励賞』
相良真理子さん
(静岡県・小学6年)



『郵政大臣賞』
村田有加さん
(岩手県・高校3年)

コンピュータ 西暦2000年問題への 対応について

理想科学では、「コンピュータ西暦2000年問題」に全社的に取り組み、本年3月までに基幹業務システムについてはプログラムの修正を完了し、8月中旬には試行を終了する予定です。また、当社製品はすでに同問題に対応済みであり、製品をご利用いただく上で問題はありません。

第三者に起因する問題が発生した場合への備え等も含め、事業への影響を最小限に抑えるために危機管理計画を9月を目処に作成する予定です。

当期の概況

当期のわが国経済は、長引く国内景気の低迷を受け個人消費の不振や金融機関の貸し渋りなど、厳しい状況で推移しました。

このような経済情勢のなか、リソグラフの国内販売については、主力製品である「GRシリーズ」の積極的な拡販に努めました。また、小型・軽量・低価格の「CR163」を7月に投入するとともに、平成11年1月には業界初の通信ネットワークに直接接続できる新製品「FRシリーズ」を投入、新たな市場の創出への布石を打つなど積極的な展開により、前期同様の成果をあげることができました。

一方、海外販売では、米国や欧州向け輸出は中南米やロシアの経済混乱の影響を受けて苦戦を余儀なくされ、アジア地域でも総じて景気低迷の影響を受けました。しかしながら、中国にサービスパーツの供給体制を構築するなど、潜在する旺盛な需要に対応した長期的施策を推し進めました。

プリントゴッコについては、買い換え需要に対応するため、価格訴求力のある製品を企画するなど個人需要を喚起する営業展開を進めました。

結果といたしまして、売上高は741億4千4百万円(前期比95.2%)、経常利益は約9億円の事業税の表示区分の変更などもあり、90億2千4百万円(前期比104.3%)となり、当期利益は平成10年度税制改正による法人税率などの引き下げの影響を受けるなどして、

45億7千9百万円(前期比100.7%)となりました。

当期の配当については、前期と同様に1株当たり50円とさせていただきます。

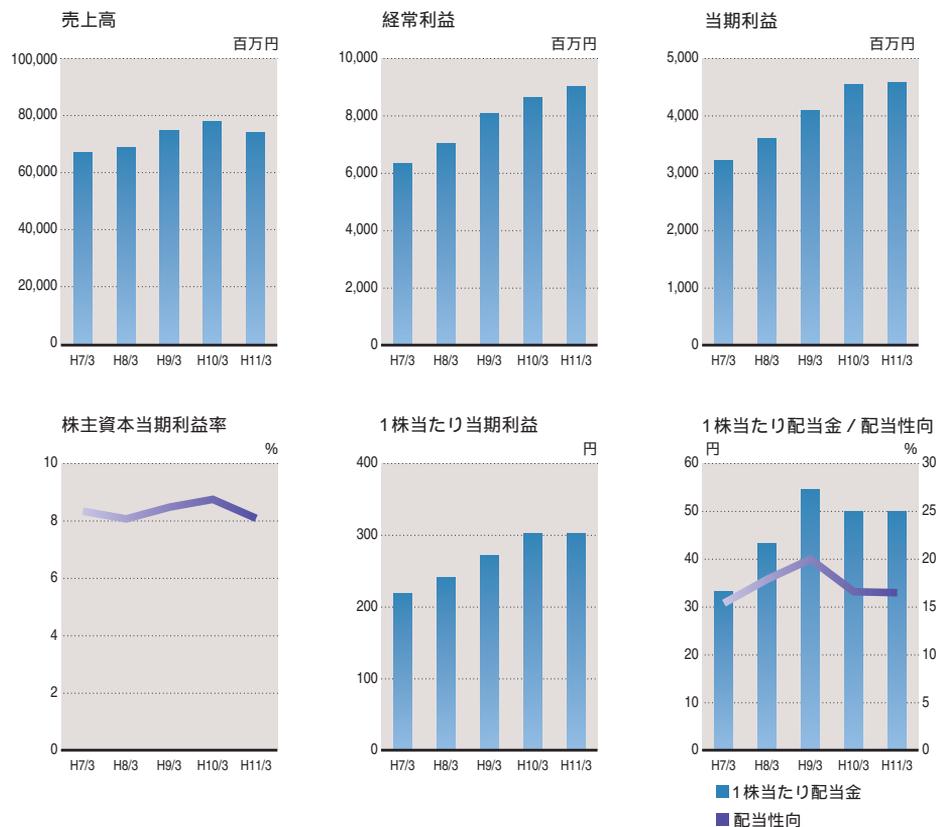
次期の見通し

次期についても、国内外とも厳しい経済環境が続くと予想されます。

当社は、世界市場を視野に入れた経営資源の効果的な投入とともに、迅速な新製品開発と国内外市場における積極的な営業展開、さらには一層の合理化を推し進め、売上高と利益の確保に努める所存であります。

次期業績については、売上高745億円(当期比100.5%)、経常利益92億円(当期比102.0%)、当期利益51億円(当期比111.4%)を見込んでおります。

次期の配当については、1株当たり50円の配当を実施する予定です。



決算期		平成7年3月期	平成8年3月期	平成9年3月期	平成10年3月期	平成11年3月期
売上高	(百万円)	66,998	68,875	74,572	77,851	74,144
経常利益	(百万円)	6,337	7,043	8,099	8,651	9,024
当期利益	(百万円)	3,219	3,613	4,089	4,549	4,579
株主資本当期利益率	(%)	8.3	8.1	8.5	8.8	8.1
1株当たり当期利益	(円)	215.02	241.15	272.16	301.99	303.24
1株当たり配当金	(円)	33.20	43.20	54.50	50.00	50.00
配当性向	(%)	15.4	17.9	20.0	16.6	16.5

(注) 当期より事業税の表示区分を変更しました。12ページをご参照ください。平成9年3月期の1株当たり配当金には、創業50周年記念配当金10円が含まれています。

財務諸表の概要(単独)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
この財務諸表は、主要な項目を表示しております。

貸借対照表

(資産の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	
流動資産	72,496	75,083	
現金及び預金	30,983	35,706	
受取手形	1,503	1,525	
売掛金	11,520	10,717	
有価証券	22,132	21,412	
たな卸資産	4,326	5,340	
その他	2,113	476	
貸倒引当金	83	95	
固定資産	39,069	36,259	
有形固定資産	26,569	26,778	
建物及び構築物	7,243	7,755	
機械装置	1,323	1,334	
土地	14,010	13,832	
その他	3,991	3,856	
無形固定資産	51	56	
投資等	12,448	9,425	
子会社株式	5,750	4,994	
その他	6,812	4,494	
貸倒引当金	114	64	
資産合計	111,565	111,343	

(注)有形固定資産の減価償却累計額23,533百万円

Point 1

現金及び預金

現金及び預金は、転換社債の償還及び銀行借入れ返済のため27億円、投資有価証券の取得15億円などにより、減少しました。

(負債の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	
流動負債	22,456	27,426	
支払手形	7,445	13,689	
買掛金	7,274	3,323	
短期借入金	7	466	
その他	7,728	9,946	
固定負債	29,895	29,894	
転換社債	27,821	28,000	
長期借入金	190	216	
退職給与引当金	1,884	1,678	
負債合計	52,352	57,320	

(資本の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	
資本金	14,114	14,084	
法定準備金	18,188	18,103	
剰余金	26,911	21,834	
(うち当期利益)	(4,579)	(4,549)	
資本合計	59,213	54,023	
負債及び資本合計	111,565	111,343	

Point 2

支払手形・買掛金

事務合理化を図るため、一括ファクタリング方式を部分的に採用した結果、支払手形が減り買掛金が増加しています。

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成10年4月1日～ 平成11年3月31日	平成9年4月1日～ 平成10年3月31日
売上高	74,144	77,851
売上原価	39,721	42,366
販売費及び一般管理費	25,321	26,156
営業利益	9,102	9,328
営業外収益	1,308	965
営業外費用	1,386	1,643
経常利益	9,024	8,651
特別利益	-	-
特別損失	343	-
税引前当期利益	8,680	8,651
法人税及び住民税	-	4,101
法人税、住民税及び事業税	4,365	-
法人税等調整額	264	-
当期利益	4,579	4,549
前期繰越利益	1,229	1,182
過年度税効果調整額	1,399	-
当期未処分利益	7,208	5,731

(注) 当期より事業税の表示区分を、「販売費及び一般管理費」から、「法人税、住民税及び事業税」に変更しました。なお、当期の事業税額は、927百万円です。

Point 3

特別損失

財務体質の健全化のため、適格退職年金の期末現在の過去勤務債務を一括償却しました。

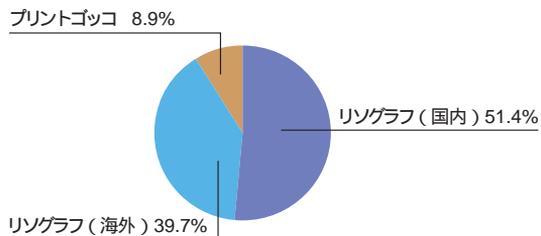
利益処分

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成11年3月期	平成10年3月期
当期未処分利益	7,208	5,731
利益準備金	7	54
利益配当金	755	754
別途積立金他	80	3,693
次期繰越利益	6,365	1,229

(注) 利益配当金は、自己株式58株分を除いております。

売上高構成比率



Point 4

法人税等調整額・過年度税効果調整額

税効果会計を当期より導入した結果、税金の前払い分の調整が発生しました。

当期の概況

当期において、欧米の景気は概ね堅調に推移しましたが、ロシアでは8月に通貨・金融危機が発生し、関連諸国の経済にも深刻な打撃を与えました。また、アジア諸国でも通貨危機以来依然として景気が低迷し、中国においても景気拡大のテンポは緩やかなものとなりました。一方、わが国では景気低迷の長期化により、企業収益は全体として減少傾向をたどりました。

このような情勢のもと当社は、企業グループ丸となって販売の拡大に努めました。欧米では顧客に密着した販売体制の構築に着手するとともに、現地販売子会社の増資を行うなど、将来に向けた販売力の強化に努めました。アジアでは、最大の市場である中国にサービスパーツの供給体制を構築するなど、潜在する旺盛な需要に対応した長期的施策を推し進めました。しかしながら、欧米での販売は中南米やロシアの経済危機の影響により苦戦を余儀なくされ、アジアでの販売においても景気低迷の影響を受けることとなりました。一方、日本国内においては、主力製品である「GRシリーズ」の積極的な拡販、ならびに7月には、小型・軽量・低価格の「CR163」を市場投入するとともに、平成11年1月には通信ネットワークに直接接続できる業界初の新製品「FRシリーズ」を発売、新たな市場創出への布石を打つなど積極的な展開により、前期同様の成果をあげることができました。

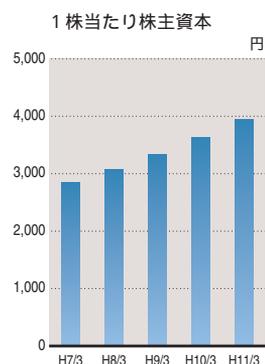
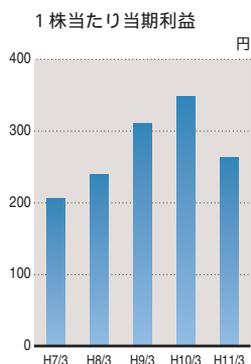
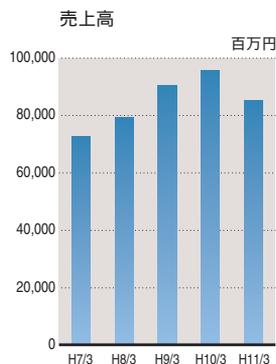
結果といたしまして、海外での販売不振が響き、売上高は853億6千5百万円(前期比89.3%)となりました。また、積極的な先行投資と円高の影響により、経常利益は87億5千8百万円(前期比79.4%)、当期利益は39億7千5百万円(前期比75.6%)となりました。

次期の見通し

次期についても、国内外とも厳しい経済環境が続く見込みであり、景気回復には暫くの時間がかかると推察されます。

当社企業グループは、迅速な新製品開発を基本に、世界市場における経営資源の効果的投入と積極的営業展開、さらには一層の合理化を推し進め、売上高と利益の確保に努めてまいります。また、中国に設立した生産及び販売拠点が夏より稼働、当社として初の海外生産を開始します。

次期の業績については、売上高920億円(当期比107.8%)、経常利益94億円(当期比107.3%)、当期利益53億円(当期比133.3%)を見込んでおります。



決算期		平成7年3月期	平成8年3月期	平成9年3月期	平成10年3月期	平成11年3月期
売上高	(百万円)	72,747	79,217	90,420	95,574	85,365
営業利益	(百万円)	6,211	6,796	10,059	10,873	10,017
当期利益	(百万円)	3,092	3,598	4,666	5,255	3,975
株主資本当期利益率	(%)	8.1	8.1	9.7	10.0	7.0
1株当たり当期利益	(円)	206.54	240.12	310.56	348.86	263.20
1株当たり株主資本	(円)	2,853.39	3,067.06	3,333.11	3,634.52	3,935.71

(注)当期より事業税の表示区分を変更しました。16ページをご参照ください。

財務諸表の概要(連結)

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。
この財務諸表は、主要な項目を表示しております。
当期より改正後の連結財務諸表規則に従っております。

貸借対照表

(資産の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	平成10年3月31日
流動資産	85,294	88,922	
現金及び預金	33,286	37,987	
受取手形及び売掛金	16,259	16,038	
有価証券	22,156	21,434	
たな卸資産	10,104	11,291	
その他	3,942	2,573	
貸倒引当金	455	403	
固定資産	33,803	31,651	
有形固定資産	27,511	27,689	
建物及び構築物	7,335	7,855	
機械装置及び運搬具	1,988	1,935	
土地	14,010	13,832	
その他	4,177	4,066	
無形固定資産	178	222	
投資その他の資産	6,113	3,739	
投資有価証券	1,547	71	
その他	4,680	3,732	
貸倒引当金	114	64	
資産合計	119,097	120,573	

(注)有形固定資産の減価償却累計額24,638百万円
当期より、「連結調整勘定」「為替換算調整勘定」は「固定負債」に含めて表示しております。また「少数株主持分」は独立項目として表示しております。

Point 1

現金及び預金

現金及び預金は、転換社債の償還のため25億円、投資有価証券の取得15億円などにより、減少しました。

(負債の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	平成10年3月31日
流動負債	29,412	34,991	
支払手形及び買掛金	15,337	18,113	
短期借入金	4,691	4,209	
その他	9,383	12,668	
固定負債	29,924	29,918	
転換社債	27,821	28,000	
長期借入金	203	238	
その他	1,884	1,679	
連結調整勘定	15	11	
為替換算調整勘定	-	531	
少数株主持分	-	245	
負債合計	59,337	65,699	
少数株主持分	305	-	

(資本の部) (単位:百万円)

科目	当期		前期
	平成11年3月31日	平成10年3月31日	平成10年3月31日
資本金	14,114	14,084	
資本準備金	14,666	14,637	
利益準備金	3,543	3,488	
剰余金	27,130	22,665	
自己株式	0	1	
資本合計	59,454	54,874	
負債、少数株主持分及び資本合計	119,097	120,573	

Point 2

短期借入金

海外子会社の運転資金を、現地の銀行から借入れています。

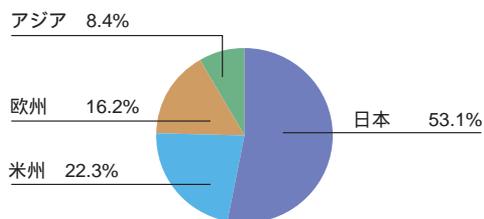
損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成10年4月1日 - 平成11年3月31日	平成9年4月1日 - 平成10年3月31日
売上高	85,365	95,574
売上原価	38,279	46,764
売上総利益	47,086	48,809
販売費及び一般管理費	37,068	37,935
営業利益	10,017	10,873
営業外収益	1,029	989
営業外費用	2,287	1,915
経常利益	8,758	9,948
特別利益	-	-
特別損失	343	-
税金等調整前当期利益	8,414	9,948
法人税及び住民税	-	4,702
法人税、住民税及び事業税	4,751	-
法人税等調整額	276	-
少数株主損失	34	48
連結調整勘定償却	-	38
当期利益	3,975	5,255

(注) 当期より事業税の表示区分を、「販売費及び一般管理費」から、「法人税、住民税及び事業税」に変更しました。なお、当期の事業税額は、935百万円です。

地域別売上高比率



連結対象子会社一覧

25社(国内10社 海外15社)

国内

理想沖縄株式会社
理想筑波株式会社
理想松戸株式会社
理想静岡株式会社
理想岐阜株式会社
株式会社岡田科学
株式会社理想科学研究所
リソーエージェンシー株式会社
リソーテクノ株式会社
理想ピーエスエス新橋株式会社

海外

RISO, INC.
RISO DE MEXICO S.A.
RISO (Deutschland) GmbH
RISO (U.K.) LTD.
RISO FRANCE S.A.
RISO CHINA LTD.
RISO CANADA, INC.
RISO EUROPE LTD.
RISO POLAND Sp. zo.o.
RISO IBERICA, S.A.
RISO HONG KONG LTD.
RISO (Thailand) LTD.
RISO (SHANGHAI) INTERNATIONAL TRADING CO.,LTD.
RISO AFRICA (PTY) LTD.
RISO DO BRAZIL LTDA.

株式の状況

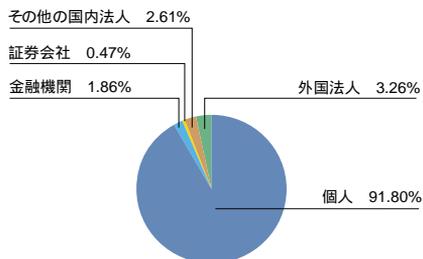
(平成11年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 35,000,000株

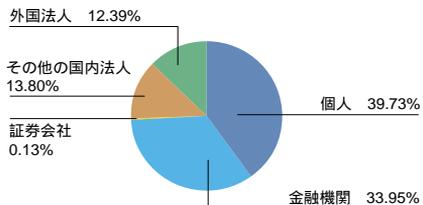
発行済株式総数 15,106,500株
(前期末比8,131株増加)

株主数 2,788名
(前期末比921名増加)

株主数比率



株式数比率



大株主一覧(上位10人)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社理想社	1,135	7.51
羽山 昇	1,010	6.68
財団法人理想教育財団	665	4.40
株式会社東京都民銀行	541	3.58
プログレシブベンシヨン マネジメント エルビイ ネンキンフクシジギョウダングチ	451	2.98
東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口)	413	2.73
株式会社さくら銀行	354	2.34
株式会社日本興業銀行	354	2.34
株式会社東京三菱銀行	353	2.34
羽山 昭子	352	2.33

会社概要

商号	理想科学工業株式会社
本社	〒105-0004 東京都港区新橋2丁目20番15号 新橋駅前ビル1号館(登記上)
連絡先	〒108-8385 東京都港区芝5丁目34番7号 田町センタービル
創業	昭和21年(1946年)9月2日
会社設立	昭和30年(1955年)1月25日
資本金	14,114,488,048円
従業員数	1,574名



役員

代表取締役社長	羽山 昇
代表取締役副社長	羽山 明
代表取締役副社長	池田 常雄
専務取締役	小淵 昌夫
専務取締役	西村 雅夫
専務取締役	黒岩 経成
常務取締役	池田 弘之
常務取締役	野見山誠一
常務取締役	原田 種弉
常務取締役	河合 伸雄
取締役	川北 博
取締役	中島 真人
取締役	村井 清
取締役	神田 恵仁
取締役	藤井 貞二
取締役	高浪 之雄
取締役	鈴木 昭平
取締役	姫嶋 政幸
監査役	後藤 正宏(常勤)
監査役	島村 和光
監査役	* 井内慶次郎

(注) 印は、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役です。

(平成11年3月31日現在)

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日 そのほか必要があるときには、あらかじめ公告する一定の日
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
名義書換代理人	安田信託銀行株式会社 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同事務取扱場所	安田信託銀行株式会社 証券代行部 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 お問い合わせ先	安田信託銀行株式会社 証券代行部分室 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 電話03(3642)4004(大代表)
同取次所	安田信託銀行株式会社 全国各支店
銘柄コード	6413
名義書換手数料	無料
新株券交付手数料	新株券1枚につき印紙税相当額(ただし、満欄による場合は無料)
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
理想科学株主様窓口	理想科学工業株式会社 総務部 〒108-8385 東京都港区芝5丁目34番7号 田町センタービル 電話03(5441)6611

インターネットで当社に関する情報がご覧いただけます。

ホームページアドレス URL <http://www.riso.co.jp/>

 **理想科学工業株式会社**

本社 / 〒108-8385 東京都港区芝5丁目34番7号 田町センタービル

本事業報告書は、再生紙を使用しております。